

2025 年度(令和 7 年度)

自己点検・自己評価 及び 学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会
福岡水巻看護専門学校

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡水巻看護専門学校の職業実践専門課程認定に関
わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

2026 年 6 月 10 日

学校長 矢野 公一

学校評価実施責任者
副学校長 平田 昌美

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生募集
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅷ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所 属	選出区分
佐藤 謙吉	東筑紫学園高等学校 3学年主任	高校等評価委員
木通 幸代	福岡新水巻病院 看護部長	企業等評価委員
蟹川 美和	北九州市立楠橋市民センター 館長	地方公共団体等
田中 理章	北九州市立楠橋市民センター 前館長	地域住民
高祖 順子	水巻町社会福祉協議会 事務局長	公共団体関係者
塩川 洋平	福岡新水巻病院 副看護師長	卒業生

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

委員会 日 時:令和 8 年 3 月 26 日(木)10:00～12:00
場 所:福岡水巻看護専門学校 会議室

4) 学校関係者評価方法

- 令和 7 年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。
- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
 - ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
 - ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
 - ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
- A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

本校は「人間愛と自己実現」という深い精神を核に、地域医療に貢献する有能な人材育成に取り組んでいる。グループ病院との強い連携は本校の強みである。教育理念・目的・目標、人材育成像は、学生便覧、ホームページ等で公開し、学生、学校関係者、地域の人に発信しているが、認知度が低く課題である。教育目的・育成人材像は、社会における医療、看護・看護教育の動向を踏まえ、関連団体とも連携しながら時代の要請に応じたものとなるよう、毎年評価し、見直しを図っている。

課題及び今後の改善方策

認知度が低く、志願者が集まらないことが課題である。ターゲットを絞り、独自の強みをアピールできるような募集対策を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅱ 学校運営

総括

運営方針については、社会に貢献できる看護師の養成という教育理念、教育目的の達成を目指した学校運営に向けて、一貫した方針を掲げている。組織運営については、教育理念、目的の達成を目指した学校運営を行うために、組織図の見直し、諸規定の改廃、会議、委員会の開催等行い、その整備に努めている。情報システムについては、学事システムを導入し業務の効率化を図っている。また、共有フォルダやクラウドなどを活用し、チームでの仕事の効率化を図っているが、方法に関して十分に活用できていない箇所がある。クラウドに関しては、個人のパソコンにデータを残す必要がなくなり、セキュリティが向上している。基本的には、学生情報(個人情報等)の機密性を重視し、セキュリティ体制を考慮したシステム構成の構築を行っている。学生との連絡ツールとして、クラスルームを活用している。しかしクラスルームを確認しない学生もあり、速やかな伝達ができないときもある。運用方法としては効率化が図れているが、学生の確認が滞らないよう見直していく必要がある。

課題及び今後の改善方策

共有フォルダーやクラウドの活用方法が理解できていない。フォルダーの構成を検討し、教職員が迷わないようにしたい。また、クラウドの強みを活かした業務効率化を図る。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目Ⅱ－2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅲ 教育活動

総括

教育課程編成において、教育理念から教育目的・教育目標・育てたい学生像を明文化している。また、シラバスには、各授業科目の目的、到達目標、授業内容、授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしている。看護学科においては、3年間で106単位3045時間の教育課程を実施し、全単位取得をもって卒業時の到達としている。教育方法については、専門基礎分野や専門分野の講義は、専任教員とともに法人グループの各病院・施設の医師や看護師・助産師が担当している。演習においては、学内ではあるがなるべく現場の状況を取り入れ、学生や教員が患者役を行い、看護援助の振り返りを行っている。単に知識・技術の強化だけでなく、コミュニケーション能力や状況判断能力の強化に向けて、シミュレーション教育も取り入れている。学生の臨床判断能力や看護実践能力は個人差があり、多くの学生がわかる、身につく授業の工夫が必要である。教員自身がどのような教育方法が必要なのか考え実施する、教育実践能力をあげていかなければならない。授業評価は実施しており、学生の意見を分析し授業内容を見直している。成績評価・単位認定は学則および履修規定に則り実施している。資格取得の指導体制としては単位修得のための学習支援を個人に応じた方法を工夫しながら実施している。年々、学習支援が必要な学生は増えており、学生の状況にあった多様な学習支援の在り方に教員が苦慮している状況である。また、3年次の長期休暇は国家試験対策セミナーを対象学生に行っているが、セミナーの参加率も下がっている。各学生に合った学習支援の在り方を検討する必要がある。学内の専任教員については、業務の偏りをなくすように配分するとともに、教育力の強化や、資質向上のために研修会・学会などの参加を促している。グループ校で協同して実施している研修の参加率は高い。また今年度は、学会や専門分野等の研修に参加した教員は増えた。教員個人の学びの場は増えている。

課題及び今後の改善方策

教育力の強化や資質向上のための研修や学会への参加率は上がった。伝達講習の時間が十分に設けることができていないので、教員会議等で伝達講習を実施する

学校関係者評価委員会からの意見

教員が研修等に参加した後の学びの共有がない。報告会まで行って初めて出張の意味を成す。伝達講習は教員の質を上げるうえで必要な事であり、資料を配って見てくださいでは、駄目である。全体で30分でもいいので学びを共有し取り組むことが大切である。

小項目 Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅳ 学修成果

総括

本校は、社会に貢献できる看護師の養成を教育理念・目的に掲げていることから、病院をはじめとする医療機関への就職率が、学修成果を判断する1つの指標となり、100%を目指している。今年度については、医療機関への看護師としての就職率は100%、その内グループ病院への就職率は56.5%であった。昨年度よりグループ病院への就職率は地元就職する学生が増え、下がっている。多くの学生がグループ病院に就職することにより、地域医療への貢献に繋がるため、グループ病院への就職率の向上を図っている。就職率の向上に向けては、グループ病院と協力して就職説明会を開催している。先輩看護師から働くことについて直接話を聞くことができ、就職

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

項目Ⅴ 学生支援

総括

自らの適性を踏まえた進路選択ができるようにグループ病院の就職説明会や個別面談を行っている。学生が就職先として選択する施設の背景が年々様変わりしているように感じている。学生が就職先として選択するときに、何を基準にして選んでいるのか詳細を調査する必要性を感じている。学生相談はメンタルヘルスケアの観点からカウンセリング室を設け、専門のカウンセラーが月に1回対応する体制を整えている。学生は様々な悩みを抱えており、状況に応じてカウンセリングを勧めている。カウンセリングを必要とする学生は固定されているが、時々、複数の学生がカウンセリングを希望する時があり、カウンセラーによる学生支援の必要性を感じている。また、教員が個別面談を行い学生との信頼関係を築くことに努めている。学習面や生活面での相談には、クラス担当教員が対応している。保護者へは、年1～2回の保護者会を行い、学習状況や臨地実習、教科外活動に関してなど説明している。学習や心理面で支援が必要な学生の保護者に関しては、随時、電話で状況を伝え、必要時は保護者面談を行っている。高校・高等専修学校等との連携は高校訪問などを行い、進路教育に関する情報提供を行っている。進路相談など依頼に応じて協力体制をとっている。修学支援体制として奨学金などの案内、説明は十分に行なっている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅴ-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目Ⅴ-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

先選択の参考とするとともに、看護師として働くことのイメージ化に繋がっている。また、グループ病院が行っているインターンシップへ参加する学生も増えている。看護師は、保健師助産師看護師法の規定により国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。国家試験に合格することは、社会に貢献できる第一歩であり、学校として100%の合格率を目指している。しかし、今年度は合格率が下がっており、改めて教育内容を見直し早急に体制を立て直すためにどのように取り組むのか、日々協議をおこなっている状況である。退学者数は(1年生42名中2名、2年生58名中2名、3年生49名中0名、149名中4名退学)と昨年より減少している。健康上問題を抱えていた学生が退学しており、学習に関することや友人関係による理由で退学する学生は少なくなった。学生にとって友人関係は、学校生活の中で重要視されることであり、教員として十分考慮して関わっている。また、学生の学校生活以外の活動(アルバイト等)については面談などで把握している。

課題及び今後の改善方策

看護師国家試験の合格率低下の要因に対し、カリキュラム、学習環境、学生サポートの見直しを図り、改善を図る。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅳ-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目Ⅳ-2

国家試験合格率が良好であるか

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント
特になし

小項目Ⅳ-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

特になし

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目VI 教育環境

総括

施設・設備・教育用具に関しては、法令に則り整備するとともに、教育目的の達成を目指し、知識・技術の両面から実践力を育てる環境となるよう充実に努めている。教材以外でも学校環境として、学生自身が快適で安心して過ごせる空間づくりを重要視している。例えばサロンや廊下の空きスペースなどに、ソファや椅子を置き、いつでもくつろげる場を提供している。学生が一人の時間や友人と楽しむ時間など、学生にとって居心地の良い空間づくりを今後も実施していきたいと考えている。また図書室や講堂、視聴覚室は、卒業生やグループ職員が利用できるように便宜を図っている。学生が快適な学校生活を送れるように施設・設備を整えている。臨地実習は教育目的達成に向けての重要な科目であり、学修成果の向上を目指して実習環境を整えている。本校、看護学科の基礎看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護論、統合看護学実習はグループの病院で行うことができている。実習施設は、実習指導者の配置をはじめ看護基準の作成・活用、看護職員の継続教育の実施、看護用具の整備等実習施設としての条件を具備することが必要であり、この点を踏まえて各実習施設との調整を行い、より良い実習環境の確保に努めている。また、グループ病院(福岡新水巻病院)との連携で、実習指導者の研修会を開催している。しかし、臨地の場で学べる事が年々縮小傾向にあり、経験して学ぶことが限られてきている。より一層、学内でのシミュレーション教育が必須である。次年度の課題としては、本校のシミュレーション

室の充実を図り、活発に看護実践能力の向上に取り組んでいく必要がある。防災計画、消防計画、マニュアル整備については、消防計画を作成し、消防署へ届出を行い、防火対策のマニュアルについても作成し運用している。防災・安全管理については、規定整備や消防訓練等も定期的に行っているが、訓練等ではマニュアル化しており、緊張感に欠けることが課題である。職業上、危機感を持ち取り組むことが大事であるため、次年度は訓練の在り方を見直したいと考えている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし。

項目VII 学生募集

総括

学生募集活動については、将来看護師としての職業選択に直接結び付く教育機関であることから、学生募集に際しても、職業としての看護師について、その職務内容について説明を行うことに努めている。募集活動については、入学希望者へ公平に情報提供ができるよう心掛けており、ホームページからも情報が取得できるよう工夫している。毎年高等学校や地区別で実施される進学説明会に参加し進学相談に対応している。看護を選ぶ高校生の進学先は看護大学が多く、専門学校に進学する学生数は減少している。令和 8 年度入学生より校納金を下げ募集し、昨年度

を「事業方針」として学校運営方針に基づいた計画と併せている。予算編成に際しては費目ごとに内容を精査しており、教育目標等の学校運営方針と整合性を保っている。会計に関する規定はすべて学校法人巨樹の会として対応している。そのため予算管理、実績管理についても一定のルールとチェックのもとに、日常管理されており、問題なく運営されている。会計監査においても監査法人による監査を導入し適正に行われている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅷ 法令等の遵守**総括**

本校の運営にあたっては、関係する法令を遵守し、種々の規定されている届出について、定められた事項を毎年報告している。さらに学校運営にあたっては学則、履修規定、健康管理規定等を作成している。これらの諸規定については、必要時改正を行い、教職員は日々の運営において遵守するよう努め、学生にも関係する規定を遵守するよう徹底を図っている。学校運営に関する規定は、平成 28 年度から教育課程編成委員会規定等の規定見直しを実施し、職業専門実践課程認定維持のために「教育課程編成委員会」規定を作成し運用している。個人情報保護に関して

より定員充足率は増加し 66%となった。やはり、進学説明会に伺った際も、高校生から水巻という地名を知らない、看護学校を知らないという声を多く聞くことがあり、知名度が低いことが課題である。多くの人に本校を知ってもらうためにはどのような取り組みが必要なのか、広報委員を中心に検討している。「就職・キャリアの出口」をSNS・WEB戦略で可視化したり、近隣住民向け「健康フェア」の開催、高校への「出前授業」などの実施を考えたい。また、定員未充足を逆手に取った「手厚さ」のアピールとして、「教員一人あたりの学生数が少なく、手厚い指導が受けられるというメリットを出していきたいと考えている。本校は看護師養成校として、特に地域の看護師を確保する役割は大きい。また、グループ病院としても看護師育成の場は必須である。今後も選ばれる学校として誠実に運営に努力していきたい。

課題及び今後の改善方策

学生定員数未充足に対して、当校の学習環境が整備されていることなど魅力を積極的に発信していく

学校関係者評価委員会からの意見

選ばれる学校として、学校がある水巻町に目を向け、地域と積極的に繋がっていくことが、大事である。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目Ⅷ 財務**総括**

本校の財務については、学校法人巨樹の会の一施設として管理されている。一方で学校の独自性を保ちながら、学校運営で必要となる事業計画上の支出については、学校の運営に委任されている。学校単独の収支状況は定員未充足の為、不足の状態である。福岡県看護師等養成所運営補助金およびグループ病院からの寄付金により運営している状況である。予算編成については、学校法人巨樹の会の一施設として予算編成を行っている。同時に事業計画に当たる内容

などキャッチーな企画名を考え、積極的に地域に参画していきたいと考えている。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

は、個人情報保護方針に基づき対応を行っている。個人情報は文書および電子データで活用されるが、基本的には文書管理規定に基づき運用し、必要に応じて見直し、改正している。また、学生への指導・周知については、特に臨地実習においては、患者の個人情報を扱うことから、その取り扱い方法を遵守するように指導している。特に記録物の取り扱いは、個人情報保護の観点から管理の徹底を図っているが、確認不足や思い込みなどが理由で、置忘れや紛失などの管理不足が見られている。個人は振り返りと学生間の情報共有そして自分事として捉えることができるよう関わっている。加え、SNSの活用においても問題が発生している。口コミで学校や教員に対する誹謗中傷や学内の写真を投稿する行為がみられた。改めて、規定に則って正しく活用できるよう指導を継続している。

課題及び今後の改善方策

SNSの取り扱いについて、組織として守る仕組みづくりは行っているが、学生の「当事者意識」を育てる取り組みが不足している。ワークショップや外部専門家による情報モラルの学習会などを取り入れる。

学校関係者評価委員会からの意見

SNSに関する講習会の実施を勧める

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

学校施設・設備等はグループ病院の新入生研修やラダー研修などに使用されている。学生のボランティア活動としては学校見学会に積極的に参加し、演習等を実演するなど、学校生活について説明している。地域貢献としては地域の清掃を行うなど、地域に対して関心を寄せることができるよう関わっている。地域活動の一環として、学校の名前をポジティブに広めるための企画として、学生が主役の地域保健活動『水巻まちかど健康ラボ』や『放課後ナース・カフェ(高校生限定)』

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

特になし